

道徳学習指導案

日 時 平成16年9月28日(火)5校時
学 級 川崎村立川崎中学校3年A組
(男子12名、女子12名、計24名)
場 所 3年A組教室
指導者 教諭 稲垣陽介

1. 主題名 思いやりの心 2 - (2)

2. 資料名 「カーテンの向こう」 心つないで 3年(教育出版)

3. 主題設定の理由

(1) 価値について

項目2 - (2)は、「温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し感謝と思いやりの心を持つ」ことをねらいとしている。

思いやりの心は、自分が他者に能動的に接するときに必要な心の在り方である。すなわち、他の人の立場を尊重しながら、親切にし、いたわり、励ます生き方として現れる。したがって、思いやりの根底には、人間尊重の精神に基づく人間に対する深い理解と共感がなければならず、単なるあわれみや同情と考えられるべきものではない。しかしながら、私たち人間は、とかく利己的な考え方や自己中心的な言動に陥りがちである。他の人とのかかわりの中で、温かい人間関係を深め、これを身につけていくことは人間としてきわめて大切なことである。

中学生の時期は、他の人とのかかわりを持つことの大切さを理解できるようになってくる。しかし、人間的な交わりの場が急速に少なくなりつつある社会環境の中で、利己的・自己中心的な判断に陥りやすく、他を省みない言動に走ることも多い。根本において自分も他の人も、ともにかげいのない人間であるということを実感できるようにすることが必要である。その上で、感謝と思いやりの心を持って人に接することができるような態度を育てることが大切である。

(2) 生徒の実態について

本学級の生徒たちは、明るく元気があり、素直な生徒が多い。道徳の時間では、積極的に挙手・発言する生徒は多くはないが、自分とは違う他人の意見にも耳を傾け、自分の考えと照らし合わせながらより深めていこうとする姿勢が見られる。

体育祭などの行事を通じ、相手の立場やおかれている環境を尊重して、協力する心情も大分培われてきている。しかし、まだまだ未熟で自己中心的な考え方の生徒も多く、相手のおかれている状況を想像したり、おかれている立場を理解することができず、傷つけてしまう言動を行う場面も見られる。

他の人とのかかわりを持つことは、社会の中で生きていく上で避けては通れないことである。そこで、相手に対する思いやりの心を持って人と接していくことの大切さを、本資料を通して考えさせたい。

(3) 資料について

イスラエルのとある病室の一室での話である。

重病患者がベッドで並んで横たわっている病室は、いつも重苦しい雰囲気が漂っていた。そんな中で日々を送る主人公たちの唯一の楽しみは、窓の一番近くにいるヤコブが窓の外を見ながら話す、外の様子を聞くことであった。それが病室の仲間にとって、たった一つの生きる希望でもあった。ところが、主人公は外の様子をヤコブだけが見られることに、当初はうらやましく思ってきた気持ちが憎らしく感じるようになってきた。

ある時、特に重症だった同室のニコルが、ヤコブにベッドを交換し、窓の外の様子を見せてもらうように願い出たのだが、ヤコブはその申し出を無視し、翌日ニコルは息を引き取った。この件がきっかけで、主人公はいつしかヤコブが死んで、自分が窓ぎわのベッドに移ることを願うようになった。

その年の冬、ヤコブは苦しい息の中で、しぼり出すような声で外の様子を伝え、そのまま息を引き取った。主人公はいよいよ窓ぎわに移ることになった。やっとの思いでカーテンの外を見ることができるようになり、

主人公は期待に胸がうちふるえた。そして初めて目にする窓の外の光景は、なんと冷たいレンガの壁だった。

ヤコブが病室の仲間に生きる希望を与えるために、あえて他の誰にも窓の外を見せずに嘘の情景を伝えていたのである。本当の思いやりとは何かを、ヤコブの行動や主人公の心の変容を通して考えさせることのできる資料である。

(4) 指導について

導入

授業への意欲づけと資料のイメージをふくらませるために、一枚の病室を描いた絵を上から下へ少しずつ開きながらはっていくことで、病室の雰囲気をつかませ、さらにはカーテンにも注意を向けさせる。また、どのような状況の病人がいる病室なのかを想像させる。

展開

資料の前半部分を範読し、あらすじを追いながら、ヤコブがニコルの外を見たいという申し出を無視した行動について意見を交流していく。その中で、主人公のヤコブに対する気持ちが感謝の気持ちから憎悪の気持ちに大きく変化していく様子を確認する。

次に、資料の後半部分を範読し、そこに、主人公が見たものは、想像し思い描いていた光景とは全く違う、衝撃的な展開をとらえさせる。実はヤコブは、外がレンガの壁しか見えないのに、助かる見込みのない病室の仲間を思いやり、外の様子としていろいろとイメージしては楽しい気持ちになるような話を、外の様子として病室の仲間に伝えることで、生きる希望を与えようとしていたことに気づかせる。

その後、今日の授業の感想を書かせ、発表させることで、本時のねらいとする価値を意識しながら、これから自分のあるべき姿を確認させる。

終末

価値にかかわる教師の説話をし、余韻を残して終わる。

4. 本時の指導

(1) ねらい

相手の立場に立って物事を考え、思いやりの心を持って接していこうとする心情を育てる。

(2) 展開の概要

| 段階 | 学習内容と主な発問 | 予想される生徒の反応 | 指導上の留意点 | 備考 |
|----------|--|---|--|----------------------------|
| 導入 5分 | 1. 挿絵を見て、どのような状況の病人たちがいるのかを自由に発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・治る見込みがなさそう。 ・すぐに死んでしまいそう。 ・元気がない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・病室の絵を上から下へ少しずつ開きながらはっていくことで、病室の雰囲気とさらにはカーテンにも注意を向けさせたい。 | 挿絵 1 |
| 展 開 | 2. 資料を読み、あらすじと登場人物について確認する。 * 暗い病室の中で、ヤコブの話が唯一病人たちを明るくしていることの状態を把握する。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・主人公の気持ちに注意しながら読むように、読みの視点を与える。 ・資料の前半部分(P 84まで)を範読する。 | 資料 1 紙板書 |
| | ヤコブの話聞いて、一緒にいる主人公や病人たちは、どんな気持ちでいるのだろうか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ありがたいと思っている。 ・気持ちが明るくなる。 ・家のことを思い出す。 ・外が見られてうらやましい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な観点から自由に発言させる。 ・主人公の気持ちが「憎らしい」に変わっていくことに注目させる。 | 紙板書 (心 1) |
| | このヤコブのとした行動を、主人公はどう思っていたのだろうか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ニコルがかわいそう。 ・自分のことばかり考えていると思う。 ・俺だって見たいのに。ずるい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・主人公の気持ちが「死ねばいい」に変わっていることを確認する。 | 紙板書 (心 2) |
| | 3. 後半部分の資料を読み、内容を確認する。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・資料の後半部分(P 85から)を途中までBGMをかけながら範読する。 | 挿絵 2 資料 2 BGM 紙板書 |
| 40分 | カーテンの向こうをのぞいた後、「主人公」のヤコブに対する思いはどんな気持ちに変わっていったのだろうか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ヤコブは実はすごいやつだ。 ・ヤコブをひどいやつだと思っていた俺はばかだった。 ・ヤコブに悪いことをした。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分がヤコブの立場になったときに、初めてわかるヤコブの気持ちを十分考えさせる。 ・考えの根拠や理由も発表させる。 | |
| | ヤコブはどんな思いでやっていたのだろうか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・病室の仲間に希望や夢を与えていた。 ・相手のことを考えて。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ヤコブの本当の思いを生徒全員に気づかせる。 | |
| 40分 | 4. 自己を見つめる。 今日の授業を通して思ったことや感じたことをまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場を考えて行動すること。 | <ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視により、今後の実践意欲につながるものを紹介する。 | プリント |
| | 5. 教師の説話 あるエッセイストの言葉を紹介する。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・余韻を残して終わりたい。 | 紙板書 |

(3) 板書計画



